

浜町から 風の便り 55

2023/5/1. 船橋・浜町 辻 秀幸

乾杯！のぼうアリ

(昆虫綱ハチ目アリ科)

アリはほとんど写していない。何種類もいるというのだが、土をほじくり大石小石をひっくり返すという探し方をしないせいだろう。とはいうものの出会いがしらで採取できた幾つかを記録している。(参照：No.15)

羽あり(女王カオス)が管廊屋に紛れ込むことがある。手元の図鑑は目に付きやすいメス(働きアリ)が主で、女王やオスとの区別は勿論、他の種との比較検討ができない。そんな一つが右上写真。従って種名はかなりのいい加減。

アリは腹柄(ふくへい。腹柄節 ふくへいせつ)を持つのが特徴。比較的分かりやすく写ったものを探し出した。

腹柄とは、胸部と腹部とのくびれにある小さい突起状の物。何の役をしているのか。



クロオオアリ 矢印が腹柄

2018/8/18, 船橋・飯山満2,「千葉病院」中庭

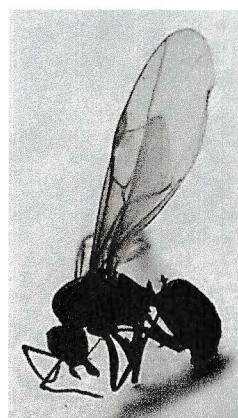
トビイロケアリ？

2018/7/1.

船橋・浜町1.

マンション3F 室内

体長(4mm)、時期、翅脈などからの不確実性妄想
女王は、一度の交尾で一生卵を生み続ける
肩書からのイメージとは程遠い大変なお役目だ。捕らえたのが女王でないことを願う。オスならいいということではないけれど



巣の、狭い通路を行き来するのに体が柔軟に折り曲げられると都合良い。その役に立つのだと、本にあった。人の体の関節みたいなものなのか。私の左膝みたいに痛くなったりするのだろうか。

アリには、女王、オス、メスの3形体がある。役目が決まっていて、群れの中で分担して務めを全うする。人間と違ってサボるヤツは居ないだろう、と思っていたら、何もしないでボケっとしているヤツのいる群れが見つかったという。群れとしてはムダどころか存続に不利だろう。ところが、洪水だ飢饉だ敵襲だという群れの存亡の危機の際、ボケっとしたヤツのいる群れが、居ない群れより生き延びる可能性が高いことも確認されたという。ボケ連中は無駄な穀食しではなくて必要な存在であった。

全員が普段からフル稼働だと、なにとてもなければ能率も効率も良いが、さあ大変だ、という時に絶命、負傷、疲労しても交代要員が居ないので、結局群れ全体が壊滅してしまうということらしい。

昔むかしの話、市立図書館でサービス向上のため夜間営業をしよう、と図書館長以下全員で知恵を絞った。夜間と言っても終夜営業ではなく、閉館時間を少し遅くしようということだけのこと。

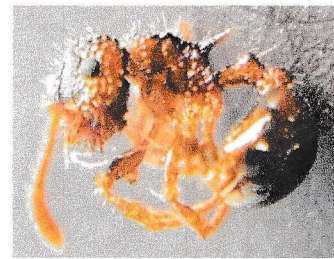
館員は増やせない、超過勤務で解決なんてその頃でもとんでもないこと。あーだこーだどうしてこうして。夜間開館に最低必要な場所と人数に絞り、最低限の人数が遅く出勤する事を軸に工夫した。うまく機能した。が、遅出の時に急病で出勤できなくなった。早出の者が続けて勤務してくれた。その分を別の日と入れ替えて計算を合わせた。病欠欠勤は取れない理屈になる。遅出の分も続けて勤務できる者がいなければ開館不能。

その後、一人二人と館員も増えて、問題も解消したはずだが、さて今はどうな

っているのだろうか。

さらに昔のこと、埼玉県に忍城(おしじょう)があった。秀吉が小田原城を攻めた時、小田原側の応援に城主が大部分の兵を引き連れて馳せ参じた。その留守を守ったトップが成田長親(ながちか)という、武道の鍛錬とかお城の維持とかよりも農作業に興味があるという変なお殿様。なので木偶の棒と呼ばれた。この時、石田三成がこの城を攻めた。大軍を前に木偶の棒こと「のぼう様」が、存在感を発揮した。水攻めにも耐え、三成も手を引かざるを得なかった。秀吉勢に攻められて降参しなかった唯一の城だという。(参照：和田竜『のぼうの城』小学館2007)

私のヒーローはこういう人物。いつもはボーっと昼行燈。これは私の得意技。いざ鎌倉という時にやむなくしびしび腰をあげて無法者を打ち砕く。カッコいいなあ。私にはこれが無い。いざという時に腰をあげても足萎え腕の筋肉なよなよなので、無頼漢に立ち向かってもあえなく返り討ち。立ち向かう勇気もない。



アミメアリ 腹柄は2個。0という種もいる

2023/4/16, 船橋・浜町1,「浜町公園」



クロヤマアリ

2023/3/22, 船橋・浜町1,「浜町公園」

